ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	No.3(staNo.38+11.9m)	調査位置				北　緯	36 ° 44 ’ 52.7000 ”
発注機関	栃木県矢板土木事務所			調査期間	2008-11-11 ～ 2008-11-13	東　経	139 ° 48 ’ 03.5000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	244.82 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0.00 °	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具	
総掘進長	9.01 m								エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0 | 10	10 | 20	20 | 30	打撃回数 ／ 貫入量 (cm)	N 値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1					砂礫 (GS)	暗灰	密な		φ10mm～φ50mm程度の円,亜円礫を主体とする φ150～500mm(コア長L=50～180mmの3倍程度として推定)の玉石が点在している 礫間は粗砂により充填され細粒分の混入は殆どない 孔壁崩壊しやすい 全体にルーズな堆積状態			1.15	12	38/4		50/14	>50							
2	242.02	2.80	2.80									1.29												
3					粘土混り砂礫 (GS-C)	褐灰	非常に密な		φ10mm～φ50mm程度の円,亜円礫を主体とする φ150～500mm(コア長L=50～150mmの3倍程度として推定)の玉石が点在している 礫間は砂と粘土により充填されている 深部は風化礫を混入している 全体に締まって堆積している			2.15	9	11	11	31/30	31							
4												2.45												
5												3.15				50/6	>50							
6	238.62	3.40	6.20									3.21												
7					凝灰岩 (Tf)	淡褐～青緑灰	非常に密な		やや風化している 割れ目は少なく柱状コアが主体 6.2～6.65m間は灰褐色を呈し5～10cm短柱状コアを呈す 6.65以深は緑灰色が主体で10～70cmの長柱状コアを呈す 岩盤区分はCM～CH級に分級される 岩盤としての硬さは硬質である			4.15	15	12	23/4	50/24	>50							11/11
8												4.39												
9	235.81	2.81	9.01									5.15				50/7	>50							
												5.22												
												6.15				50/5	>50							
												6.20												
												7.00				50/1	>50							
												7.01												
												8.00				50/1	>50							11/12
												8.01												
												9.00				50/1	>50							11/13
												9.01												